三菱UFJ国際財団 Mitsubishi UFJ Foundation vol.5/2025.12

News Letter

三菱UFJ国際財団ニュースレター第５号を皆さまにお届けいたします
事業活動やトピックスなど三菱UFJ国際財団の様々なニュース、活動報告をまとめました。
当財団ではニュースレターを定期的に発行し、財団HPに掲載いたしますので、是非ご覧ください。

人材育成

当財団では、将来を担う若い世代の学業の支援、そして人材育成の支援を以て国際理解と国際交流の推進に貢献することを目指し、以下の３事業を行っております。

海外育英奨学金

1984年よりスタートした本事業は、今年度、アジア13か国、31大学で学ぶ450名の大学生・大学院生に奨学金の支給を予定しております。また、13か国のうち、タイ・ラオス・ベトナム・カンボジアの４カ国、８大学で今年度奨学生への奨学金授与式を予定しております。

国内留学生奨学金

国内留学生奨学金は、日本国内の大学・大学院(*)に在学するアジア諸国からの留学生（大学生４名、大学院生８名）を対象に奨学金を支給しています。
（*）大学は指定校制（東京大学・一橋大学・慶應義塾大学・早稲田大学・立命館アジア太平洋大学）

大学院生に対しては7月8日に奨学金授与式を開催、また8月29日～30日に交流イベント（姫路城＆大阪関西万博見学）を開催しました。

大学生に対しては７月24日に奨学金授与式を開催、11月16日に交流イベント（大相撲観戦）を開催しました。

海外留学生招聘

９月６日、カンボジア、ベトナムよりそれぞれ１名の学生が来日、名古屋の南山大学に入学しました。
2026年５月まで日本語を集中的に学習し、日本の社会と文化などについて理解を深めていただきます。

国際交流助成

国際理解と国際交流の推進に繋がる活動・事業に対し1982年より助成金を支給しております。2025年度は一般公募で申請された団体から審査･選考の結果、41団体に助成金の支給を行うほか、自主企画助成として2団体に助成金を支給しております。このうち一般公募より4団体について今年度の活動をご紹介いたします。

日本ルワンダ学生会議／第22回本会議　in　日本

団体の概要

日本ルワンダ学生会議（Japan-Rwanda Youth Cooperation）は「相互理解」を理念として日本とルワンダの学生が学術・文化交流を行う学生団体です。ルワンダはジェノサイドを経験した国です。私たちは、その歴史を繰り返さないというルワンダの“Never again”という言葉に対して当事者意識を養い、「自由、平等、尊厳、持続可能性、寛容」の視座から、ともに社会問題に取り組む仲間となることを目指しています。「相互理解」という理念には、ルワンダでの惨劇に対峙するために偏見を取り除き、寛容な人間同士の関係づくりを行い、平和な社会を構築するという私たちの意志が込められています。

2025年度の活動内容

2025年度の主な活動として第22回本会議を日本で開催しました。本会議は隔年でルワンダと日本で行っています。今回は「復興」をテーマに設定し、8月6日から8月18日までの13日間、ルワンダ人の学生を日本に招き交流しました。福島県の訪問や、日本赤十字社、JICAの訪問等を通してそれぞれが「復興」について考え、8月16日の本会議で発表及びディスカッションを行いました。日本とルワンダでは育った環境や歴史的な背景は互いに異なっているものの共有する価値観や互いに学び合えるところも多くあります。そして、違いがあるからこそ、自分の国を客観的に見る視点も互いに知ることができます。「相互理解」を成すことは簡単なことではありませんが、今回の本会議は確実にその理念に近づく機会となったと感じています。その他の活動として、定期的な勉強会の実施、ルワンダに関する情報発信、合同学生会議等の活動も行っています。ルワンダという国に少しでも興味を持って下さる方が増えるように、そして、「相互理解」の輪を広げていけるように今後も日本ルワンダ学生会議として積極的な活動を行ってまいります。

北東アジア学生ラウンドテーブル／北東アジア学生ラウンドテーブル2025

団体の概要

北東アジア学生ラウンドテーブル（SRT）は、国際教養大学の学生団体で、北東アジア各国・地域の学生が集い、英語を共通言語として議論や交流を行う国際会議を企画・運営しています。相互理解、地域貢献、ネットワーク継承を理念とし、議論や共同作業を通じた学びと成長、地域社会との連携、国際的実践力の向上を目指しており、活動はすべて学生主体で行われ、学びや成果を次世代へつなぐことを重視しています。

2025年度の活動内容

今年度の本団体の事業「北東アジア学生ラウンドテーブル2025」では、8月10日から10日間、韓国を訪れ、韓国や台湾、モンゴルの大学生とともに、北東アジアを取り巻く諸課題について議論し、交流を深める活動を行いました。テーマとしては、「少子高齢化」・「AIの技術格差と倫理・規制について」・「気候変動」・「都市集中」の4項目について参加国地域の状況を共有しながら、原因を分析し、多様な視点から学術的な議論を深めることができました。実践的な学びの一環として、科学館や国会議事堂、景福宮を訪れ、韓国の現状や議論テーマについて知見を得ることができました。さらに、各言語でゲームを行うランゲージセッションや、各国地域の食文化を体験するフードシェアリング、それぞれの観光地や文化を紹介するカルチャーナイトというイベントを開催し、文化面での交流で相互理解を深め、大変貴重な10日間となりました。

アジアデザインアート展覧会コンソーシアム／失われたクメール美術教育復活プロジェクト

団体の概要

アジア経済の発展に伴いアートも進化していますが、地域性や風土性が失われる懸念があります。欧米模倣でなく各国の特性を生かした現代アートや展覧会は十分に知られていません。当団体は、国際交流を通じて学び合い、地域性を活かす新たなデザインを研究し、展覧会の活性化と人材育成を通じて社会に貢献することを目指し活動をしています。最近ではカンボジアのクメール美術とその教育の復活に力を入れています。

2025年度の活動内容

アンコール時代以降のクメール美術が、現代にどのような姿を見せているのかを探るため、調査を行いました。王立芸術大学や山田アートスクールでは、現代作家の作品やインタビューを通じて、作品に込められたモチーフや物語性を丁寧に見ていきました。さらに、プノンペン近郊の小学校を訪れ、美術教育の現状を調べたところ、子どもたちは皆「美術を学びたい」と願っている一方で、教師自身が十分な美術経験を持っていない現実が浮かび上がりました。その解決の一歩として、山田アートスクールで教師に美術講師の補助を体験してもらう試みも行いました。また、これらの成果を踏まえ、王立プノンペン大学で「失われたクメール美術教育復活シンポジウム」を開催。現代作家や小学生の作品展示、ポスターセッションを通じて、国際的な交流の場を広げることができました。これまでの研究がアンコール遺跡に偏りがちであった中、首都プノンペンを中心とした現代クメール美術に光を当てることの重要性が改めて実感されました。

一般社団法人おきなわ国際協力プラットフォーム／次世代のおきなわ国際人材育成プロジェクト

団体の概要

一般社団法人おきなわ国際協力プラットフォーム（OIC-PF）は、企業・団体・個人の共創によるパートナーシップで「沖縄らしい持続可能な社会の実現」に資する活動を推進するためのプラットフォームとして2024年に設立されました。これまで2019年から「おきなわSDGs国際協力ネットワーク形成プログラム」を開始、2021年には「おきなわ国際協力プラットフォーム」をJICA沖縄内に設立、2024年10月より一般社団法人となり、活動を発展的に継承してきました。主な機能は、①ネットワーク、②広報･発信、③コンサルテーション（マッチング･助言）の3つで、国際協力や社会貢献に資するプロジェクト活動を展開していきます。

2025年度の活動内容

今年度は、沖縄の若者を対象に、国際協力NGOの組織強化と次世代の中核人材育成を目的とし、事前・現地・事後研修の三部構成で沖縄県とフィリピン・西ネグロス州ビクトリアス市にて実施されました。7名の大学生の参加者は事前研修で、JICA事業やAET（アグリ･エコ･ツーリズム）の事例、訪問地の「農業」「観光」「環境」課題について知識を習得しました。現地研修ではビクトリアス市長への表敬訪問や大学（CPSU）の学生との相互のプレゼンテーションと意見交換による交流を実施。さらに、有機農場（ハイディファーム、ニソル農園）や固形廃棄物エコセンター、マングローブエコトレイルなど、地域住民の生計向上と持続可能な開発に貢献する事例を視察しました。歓迎会では沖縄のエイサーや三線を披露し、文化交流も行われました。事後活動では、フレームワークを用いて体験を振り返り、プレゼンテーションにまとめて発表、参加者には修了証が授与されました。本プロジェクトを通し、参加者の多くが国際協力への関心を深めるとともに、異文化理解や主体性の向上など、沖縄の国際性に富む次世代の育成に貢献する成果が確認されました。

国際交流助成

2026年度

公募助成金のご案内

当財団では2026年7月1日から2027年6月30日までの期間に行われる国際理解・国際交流の推進につながる活動・事業に対して活動資金の助成を行う予定ですが、この度、以下の通り一般公募によって助成対象となるグループ・団体を募集いたします。

●助成対象となる活動・事業

国際交流活動を行う日本のグループ・団体に対して、海外のカウンターパーティとなるグループ・団体との間で行われる交流活動・事業に関して活動資金の助成を行います。

この交流事活動・事業には日本のグループ・団体と海外のグループ・団体との直接的会合を含む必要があります。

なお、営利収入がある事業など助成対象外としている事業がありますが、実質的内容により判断いたしますので、個別にご相談ください。

●活動・事業の実施時期と期間

2026年7月1日から2027年6月30日までの期間に、交流活動・事業の核となる直接的会合の実施のための海外への渡航、あるいは海外から招聘等が行われる活動・事業が対象となります。

また、交流活動・事業の核となる直接的会合は1～2日の極く短期間で終わるものではなく、1～2週間程度の日数があることが望ましいと考えております。

●活動・事業の参加者層・人数

参加者の年齢層は、大学生～30歳代の青年層が交流の主体・中心であること、人数は日本・海外それぞれ10名～30人程度、最大でもそれぞれ50人程度の規模であることが原則です。

●助成金額

一般団体（NPO法人等で交流事業を社会人が企画・実施する団体）　……　50万円

学生団体（交流事業の企画・運営全てを学生だけで実施する団体）　……　50万円

●助成金の使途

- **旅　費**…海外渡航費、各国内での移動交通費、宿泊費など
- **会議費**…会場や諸設備借用の費用など
- **印刷・製本費**…事業において使用する資料作成等の費用など
- **通信費**…参加者間の連絡等に使用する費用など
- **雑　費**…資料購入費、消耗品等の諸払、講師謝礼など

●スケジュール

事前相談・申請書式交付	2025年11月25日（火）より
申請書受付開始	2025年12月12日（金）
申請書式交付締切	2026年1月21日（水）16時
申請書受付締切	2026年1月30日（金） （消印有効）

助成を希望されるグループ・団体の皆様は、詳細を当財団HP「**2026年度公募助成金募集要項**」に掲載しましたので、こちらをご覧いただき、当財団までご連絡ください。

公益財団法人　三菱UFJ国際財団

〒105-0014　東京都港区芝2丁目4-3
TEL：050-3649-8859　Fax：03-5232-0310
E-mail：tokyo_honbu@mitsubishi-ufj-foundation.jp

http://www.mitsubishi-ufj-foundation.jp/ ▶

［発行日］2025年12月1日　［発行責任者］渡邉邦弘